

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年6月1日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0890100126		
法人名	社会福祉法人 青丘		
事業所名	小規模多機能型居宅介護施設 かさはら	ユニット名	
所在地	〒310-0852 茨城県水戸市笠原町355-5		
自己評価作成日	平成26年10月24日	評価結果 市町村受理日	平成27年6月5日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2014_021_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0890100126-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=021">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2014_021_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0890100126-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=021</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年12月1日	評価機関 決 済 日	平成27年6月1日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

理念に基づき、ゆったりとした気分で、一人一人にそれぞれの対応を行っている。食事は毎食手作りで、美味しく提供している。清掃に心がけ常にきれいな居場所で過ごしていただく。又、常に穏やかに楽しく生活出来る環境作りに取り組んでいる。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は雑木林に囲まれた静かな環境にあり、散歩の時や居間などに居ながらにして四季を感じることが出来る。  
道を隔てた場所にある同一法人のグループホームと緊急時などの協力体制を確立しているほか、運営母体が医療機関のため、体調の変化に応じた随時の受診も支援しており、利用者や家族等の安心につながっている。  
管理者が利用者の馴染みの美容院や洋品店、銀行、薬局などに同行しているほか、職員は利用者と事業所近くの県庁展望台や偕楽園、歴史館、常磐神社、季節の花見等に車で出かけ、その際に外食を年3回実施するなど外出の機会が多く、利用者が馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援をしている。  
利用者は近くの公民館で水戸市が実施している「いきいき体操」に参加し、地域住民と一緒に体操をして交流をしているほか、職員と利用者は散歩の際にごみを拾ったり、事業所周辺の道路の草取りをしたりして、地域の一員として過ごせるように努めている。  
管理者と職員は利用者一人ひとりに寄り添い、利用者がゆったりと穏やかに過ごすことが出来る環境が提供できるように支援をしている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念：地域の方々と共に ・一人ひとりの気持ちに寄り添います。 ・一緒に居る時間を大切にします。 ・ゆったりと穏やかに過ごすことが出来る環境を提供します。 出来る限り、日々実践している	地域の方々とともに「一人ひとりの気持ちに寄り添います・一緒に居る時間を大切にします・ゆったりと穏やかに過ごすことができる環境を提供します」との理念を掲げ、居間に掲示するとともに、職員はネームプレートの裏に理念を携帯しているが、常に理念を意識するまでには至っていない。	掲げている理念は、「地域の方々とともに」が前提にあるが、全てが地域の方々と出来るものかを検討するとともに、理念の見直しをすることを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の施設との交流、又、ボランティアに依るシルバー体操など、少しずつであるが地域に溶け込めるよう心がけていく。	地域の公民館で開催している「いきいき体操」に4名の利用者が月2回参加しているほか、利用者と職員で散歩の際や事業所周辺の道路の草取りをしている際に、地域住民と挨拶を交わしたり、地域住民が事業所の見学に立ち寄りたりして交流をしている。 近くにある他法人の施設で開催する花火大会に利用者と職員で出かけたり、事業所で開催する夏祭りやクリスマス会には、フラダンスや合唱などのボランティアを受け入れたりするほか、道を隔てた同一法人のグループホームと他法人施設の利用者を招待して交流をしている。 シルバーリハビリ体操のボランティアが月2回来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会を通し、民生委員や地域代表の方に、コンタクトを取っていただきながら、「かさほら」の場所や内容を知っていただくことが、大切に思い努力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、市職員、地域の方々に参加していただいている。会議の内容を意義あるものにする為、毎回テーマを出し、それについて話し合う。	運営推進会議は家族等の代表や市職員2名、民生委員、地域住民1名、運営母体の看護師の参加を得て2ヶ月に1回開催し、事業所の運営状況や行事、利用者の生活状況等を報告しているほか、管理者は認知症に関する勉強会を実施している。 委員には次回の議題を事前に通知しているが、民生委員や地域住民の欠席も多く、運営推進会議でサービスの向上に活かせる意見交換をするまでには至っていない。 家族等には来訪時や電話で参加を呼びかけ、毎回違う家族等が参加している。	運営推進会議に区長や地域住民の参加を呼びかけ、そこでの意見をサービスの向上に活かせるように工夫することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険や運営について、不安や不明な不明な点が出た時には、市の窓口に出向いたり、電話等で問い合わせをし、指導を願う。	市担当者が運営推進会議で訪問の際や市の介護保険課に要介護更新認定申請手続きで訪問した際に、管理者は利用者の状況や運営状況を報告している。 管理者は市担当者に地域の高齢者の状況を聞いたり、水戸市以外の地域からの利用の依頼などについて相談するなど、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束の弊害を理解し、身体拘束をしないケアを心がけている。本人及び全員の危険防止の為に身体拘束が必要な場合に備えて、必要書類を準備している。	休憩室の壁面に「指定基準において禁止の対象となる具体的な行為」を掲示し、身体拘束をしないケアに全職員で取り組んでいるが、身体拘束排除マニュアルには記載されていないほか、内部研修を実施するまでには至っていない。 現在身体拘束の対象となる利用者はいないが、身体拘束が必要になった時の同意書や経過観察記録、再検討記録等の書類は整備している。 玄関は外から入る事は出来るが、危険防止のため内側からは出られないようになっており、家族等からの希望もあって書面で同意は得ているが、経過観察記録や再検討記録を残すまでには至っていない。	全職員が身体拘束の具体的な行為や弊害を正しく理解できるよう、マニュアルに身体拘束となる具体的な行為を記載し、年1回程度マニュアルに基づいた内部研修を実施することを期待する。 利用者が玄関から自由に入力できるよう、施錠をしないケアに取り組むとともに、玄関の施錠を継続している間は職員で話し合い、経過観察記録と再検討記録を残すことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝のミーティングや職員会議の際に虐待防止の意識が高まるように注意や話を心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	水戸市発行の「お年寄り便利帳」などのパンフレットを置き、いつでも見られるようにしてある。現在はその利用に至らないが必要に応じて支援していく。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に契約書、重要事項説明書できちんと説明し、理解、納得をしていただけるよう配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族より意見や要望をいただいた時には、直ぐ話し合い、検討し対応している。玄関に意見箱を設置し、家族からの意見を少しでも、いただけるようにしている。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記するとともに玄関に意見箱を設置している。利用者からは日々のふれ合いの中で、家族等からは月1回の居宅訪問時や送迎時、家族等が来訪した際のほか、連絡帳にて意見や要望を出してもらえよう努めている。利用者や家族等から金銭のトラブルの相談があり、公衆電話の設置が原因であることが判明し、公衆電話を撤去するなど、要望や意見を汲みあげて運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の引き継ぎ、ミーティングで職員の意見や提案を聞き、必要に応じて上司に提出し運営に反映させている。	管理者は朝礼や職員会議で、職員の意見や要望等を出す機会を設けるとともに、日頃から意見等を言い出し易い関係づくりに努め、必要に応じて個人面談を随時実施している。利用者が安全に入浴ができ、職員も負担のない入浴支援ができるように、浴槽に手摺を設置することやシャワーチェアの利用の提案を受けて実施するなど、職員から出た意見や要望等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	母体の病院で月一回定例会議を実施し、要望や意見などを話し合い、職員一人ひとりが向上心を持って働けるよう配慮している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の採用時、二ヶ月の見習い期間を設けて、施設内の業務を指導し、採用を決定している。他の施設へも見学研修を進んで行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	近隣にある施設などと一緒に出来る行事などを計画し、お互いに協力し合いサービスの向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時より、信頼関係を築いていけるよう努力している。本人、家族との面談や電話でも、不安や心配を取り除けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と十分に話し合い、家族の思いを良く聞き、理解し、良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所内のサービス調整だけでなく関連施設との情報交換など、協力をいただきながら、支援を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	安全、安心して穏やかな気分で過ごす事が出来るよう配慮し、出来ることは一緒に行ったり、又、行うよう声かけしながら見守りをしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にし、近況報告をしている。外泊、外出の少ない利用者については、協力していただけるよう働きかけ、共に本人を支えて行けるよう努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく近所の方々や友人、知人の訪問も快く応じ、関係が途切れないよう支援に努めている。	職員は泊りの利用者の親戚や友人が訪問した時には、利用者の居室や希望の場所に案内し、お茶を出して歓迎している。 管理者や職員は利用者の馴染みの商店で洋服を購入したり、銀行や薬局、美容院に同行するほか、同行できない場所には家族等に利用者の思いを伝え、利用者の馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援をしている。 職員は送迎時にも出来る範囲で利用者の希望の道路を利用し、馴染みの場所が見られるように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に目配り、気配りし、利用者同士のトラブルを回避し、仲良く楽しく過ごすことが出来るよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された方でも、病院等にお見舞いしたり、自宅の近くに行った時には寄り、本人、家族に挨拶をして来る。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の関わりの中で、コミュニケーションを取りながら本人、家族の希望に沿ったサービスが提供出来ているか、常に話し合い、検討している。	職員は利用者とのコミュニケーションに心がけ、利用者が思いや意向が言い表せるよう努め、新しく把握した利用者の情報は介護日誌に記録をしている。 思いや意向の把握が困難な利用者の場合は、家族等から話を聞いたり表情やしぐさなどから思いを汲み取るように努め、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時には、十分なアセスメントを行い、これまでの生活環境や馴染みの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズム、心身の状態や様子などを把握し、その人にあった過ごし方が出来るよう対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝のミーティングで各個人の身体や精神状態を話し合い、又、本人、家族関係者より、情報収集を行い、介護計画を作成する。必要に応じてモニタリングを行い現状に合ったケアに取り組んでいる。	介護計画は利用者や家族等の希望を取り入れ、担当職員の意見を取り入れて作成をしているが、利用者の状態に変化がない場合は、1年間見直しを実施していない。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、自宅を訪問して必要な関係者と話し合い、モニタリングを実施して現状に即した介護計画に見直しをしている。	介護計画の見直しは1年間ではなく、長期目標と短期目標の期間を設定し、実現可能な目標を立てるとともに、モニタリングは毎月実施することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録用紙に生活の様子や体調の変化等を記録している。朝、夕の引き継ぎ、又、申し送りノートで情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用の変更について、当日であっても可能な限り、受け付けている。その時々々のニーズに対応し柔軟な支援に取り組む。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員の場所を利用し地域代表の方や民生委員の方により、情報をいただき地域の社会資源の把握に努める。困りごと、不明な点は市に相談、指導を受ける。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院は基より、それぞれ本人のかかりつけ病院の担当者とコンタクトを取り、相談を行い、又、家族の希望も聞き入れながら受診支援を行っている。必要に応じて送迎介助も行う。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診を支援し、かかりつけ医を受診する際は家族等が付き添い、協力医療機関への受診は月2回職員が受診支援をしている。 かかりつけ医への受診に家族等が付き添う場合は、事業所から医者に聞いてほしいことを口頭や連絡帳で家族等に知らせ、職員が同行した場合は送迎の際や連絡帳、電話などで家族等に伝え、受診結果は記録して家族等や全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護師や関連施設の看護師と情報を共有し、健康管理やケアについての相談を行っている。毎朝のミーティングで状態確認し計画的に受診や健康管理を行う。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会に訪れ、安心していただけるような対応を心がけると共に家族、病院の担当者とコンタクトを取り、本人の情報支援を行い、早期退院に向けて協力対応をしている。	/	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する前に本人、家族と話し合い、主治医に相談する。事業所での対応が困難な場合には、母体の病院にて治療、ケアの対応を願う。	「看取り期ケア及び重度化した場合の対応マニュアル」の（1、看取り期に関する考え方）では、事業所は原則として看取り期のケアは行わない事とする。としているが、（2、重度化した場合の援助支援方針）では、看取りケアに関するマニュアルが記載され、事業所で看取りを実施する内容となっており、契約時に利用者と家族等に説明し確認書を得ているが、看取りに関する方針に関しては曖昧である。 重度化や終末期に関する研修会は実施されていない。	看取りに関する事業所の方針を早急に話し合い、「重度化や終末期に向けた方針」を作成して利用者や家族等に説明し、確認書でなく同意書を得ることを期待する。 職員が重度化や終末期の状態を理解するためにも、研修会を実施することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、各職員がいつでも確認出来るようにしている。	/	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。近隣の関連施設と何かの時には、協力し合える体制が出来ている。	消防訓練は年2回のうち1回は消防署立ち合いのもと、1回は夜間想定で実施し、実施後は反省会を開いて実施状況や訓練で明らかになった課題等を記録に残している。 災害時には、隣接する同一法人のグループホームとの連携は確立されているが、近隣住民とともに訓練への参加を得るまでには至っていない。 災害に備え水や米、レトルト食品のカレーやスープを二日分備蓄しているほか、衛生用品は常に多めに在庫を保管し、懐中電灯は台所に毛布はロッカーや和室に備えているほか、近隣の運営推進委員宅の井戸水が使用できることになっている。	災害訓練に関しては、運営推進会議等で働きかけたり、チラシ等を配布する等して知らせ近隣住民の参加を得て、協力体制が確立する事を期待する。 近くに同一法人のグループホームと他法人の施設があり、年間行事等で交流しているので、災害訓練にも協力し参加し合って災害に備えられることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令口調にならない言葉使いに心がけ、職員間でも常に確認し合い、お互いに注意する。又、各個人を尊重する態度での対応に心がけている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。 トイレ誘導の際は小さな声で声かけをし、入浴の際もプライバシーに配慮して接している。 個人情報に関する書類は、事務室の奥の相談室に設置してある鍵のかかるロッカーに保管し、下駄箱の氏名などは家族等から同意書を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活で、本人が発する言葉や表現を観察し、本人の思いや希望を表し、出来る限り、それに沿って支援し、自己決定出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは曜日によって決まっているが、一人ひとりの状態やペースに合わせて柔軟なケアを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一度、理容師に訪問していただき、希望に応じて散髪している。毎日の衣服も本人の意志を尊重、又、体調に合わせて着替えの介助に当たる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	運営法人の栄養士が作成した献立の食材をいただき、全食、職員に依り手作りである。職員も見守りしながら一緒に食べる。手作りの食事は好評である。	法人本部の栄養士が作成した献立の食材が本部から届き、職員が調理して利用者の嫌いな食べ物は代替品で対応している。 雛祭りやクリスマス等の季節に合わせた行事食は、利用者と職員で献立を考えているほか、年3回実施している花見やドライブを兼ねた外食は、利用者の楽しみとなっている。 職員は利用者と一緒に食事を摂り、利用者に応じた支援をしながら楽しい食事となるよう努めている。 利用者は能力に合わせて、野菜の下ごしらえや下膳、テーブル拭きなどの役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立により、バランス、必要量を確保している。一人ひとりの状態を把握し量や味つけにも気を配る。水分も十分に摂れるような配慮をしている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の手洗い、うがい、食後の歯磨きを習慣づけている。各個人、必要に応じて口腔ケアの介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄のパターンを把握し、時間をみてトイレ誘導する。可能な限りトイレでの排泄が継続できるように支援している。	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、タイミングを見計らいながら声かけやトイレ誘導をしている。 利用者の状態に応じたおむつやパッドの使用を検討して、使用量の軽減に取り組むとともに、出来るだけトイレでの排泄が出来るように支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が原因で及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や体動等の支援をし個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一応入浴の時間帯、曜日は決めているが、本人の希望や必要性を考慮し、その都度の対応にも心がけている。それぞれ気分よく、ゆっくり入浴出来るよう対応している。	通いの利用者は毎回入浴が可能となっており、泊りの利用者は週2回とし、体調不良などで入浴が出来ない場合は清拭で対応をしている。 浴槽に手摺を設置したり、シャワーチェアを配置したりして利用者の安全に配慮しながら、快適に入浴出来るように支援をしている。 入浴を拒む利用者にはタイミングを見計らいながら言葉かけを工夫し、家族等とも相談して無理の無いように促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間、外気浴や運動を取り入れたレクリエーションで楽しい時間を過ごす対応をし、良い気分での休憩したり眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の処方箋をファイルしてあり、職員が内容を把握出来るようにしてある。服薬の変更が生じた時には、その都度知らせ合い、一人ひとりの処方薬を確認しながら、間違いなく確実に服用するよう対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみや張り合いのある暮らしが出来るよう、又、自分らしく過ごす事が出来るよう、その都度、出来ることの役割を行っていく。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の状況や天候を見て、外出の行事を企画、実行している。（散歩、食事会）本人の希望もあり、なかなか全員での外出は困難であるが、家族や地域の方々の協力をいただき、外出する機会を作る。	利用者は職員と一緒に日常的に近隣の散歩に出かけ、外気浴を楽しんでいる。 利用者と職員で水戸市にある歴史館や偕楽園、常磐神社、事業所近くの県庁の展望台や季節毎に桜や紅葉見学に車で出かけ、気分転換や五感刺激の機会としている。 職員が同行できない場所には、利用者の思いを家族等に伝え、家族等と一緒に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力に応じて、お金を所持したり、使えるように支援して行く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用する利用者もあり、又、電話をかけてほしい依頼には対応している。手紙の取り次ぎも各個人の要望で対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には造花を植え、食堂には季節ごとに全員で作った作品が飾られている。廊下には手すりを設置している。昼間、全員で過ごすことが多いリビングは常に一定の温度を保てるよう換気やエアコンで調整している。	事業所全体が清潔に保たれて居間兼食堂は広く、窓からは周囲の雑木林が望めて四季を感じることが出来る。 換気やエアコンで一定の温度に保たれ快適に過ごすことが出来る。 玄関はバリアフリーになっており、廊下は車椅子でもすれ違える広さがあるほか、トイレも広く立ち上がりバーが設置してあり、車椅子の利用者が不便を感じない造りとなっている。 浴室には一般浴槽と機械浴が設置され、利用者の状態に合わせた入浴支援が出来るようになっているが、現在機械浴の利用者はいない。 居間兼食堂には、利用者と職員で作ったクリスマス飾りや、綿で作ったサンタクロースの顔を絵画のように壁面に飾るなど、時期に合った作品で季節感を出している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、和室やソファなど、独りでテレビを観たり、昼寝をしている。テーブルの場所でも利用者が自由に過ごしている時間帯がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	休憩、泊りの部屋は出来るだけ、同一の利用者が使用できるように配慮し、安心して過ごすことが出来るよう工夫している。	居室にはカーテンやエアコン、ベッド、寝具、整理箆筒、オーバーテーブル、洗面台が設置されている。 泊りの利用者は使い慣れた衣装ケースや時計、本、化粧品、手鏡、こけし、手作りカレンダーなどを持ち込み、居心地良く過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能の状況に合わせて安全かつ、出来るだけ自立した生活が送れるようにする。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 小規模多機能居宅介護施設 かさはら

作成日 平成27年6月3日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議を活かした取り組み	参加人数を増やし中身を充実した会議にして行く	ご家族や地域の方が参加して良かったと思えるような議題にして行く	6ヶ月
2		運営に関しての職員の意識が少ない	全ての仕事に関して職員のレベルアップを心がける	ミーティング、勉強会などでその都度、検討、話し合いながらレベルアップして行く	1年
3		デイサービスのご利用が少なく運営上も問題である	デイサービスのご利用者を常時、15人に持っていきたい	地域の方々に「かさはら」のデイサービスを知っていただく為に、チラシ等を作成し配る予定	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。